

草津市歴史文化基本構想策定に向けた第1回ワークショップ 開催報告

開催概要

◆ 対象テーマ

テーマ3 「人と物の行き交う草津」

【参考】草津市の歴史文化のテーマ(案)
テーマ1「真金吹く炎の文化」
テーマ2「受け継がれる中世のこころ」
テーマ3「人と物の行き交う草津」

◆ 日時

平成30年8月5日(日)
13時～17時

◆ 内容(場所)

13:00～13:35 趣旨説明(アミカホール)
13:35～15:35 まちあるき(史跡草津宿本陣他)
15:50～16:50 グループワーク(アミカホール)

◆ 参加者

16名

◆ 開催結果の概要

最初に、歴史文化基本構想の概要や策定の考え方、検討中の3つの歴史文化のテーマについて説明しました。その上で、第1回のワークショップで対象とするテーマ「人と物の行き交う草津」と構成する文化財等(今回見学を行うもの)の概要を解説し、まちあるきに出発しました。

まちあるきでは、①立木神社、②八百久、③草津宿街道交流館、④常善寺、⑤吉川芳樹園、⑥史跡草津宿本陣、⑦追分道標、⑧双葉館魚寅楼を巡り、各所で文化財保護課職員から解説を行いました。また、③と⑥では、各施設の学芸員から、詳細な解説を受けました。

まちあるき後のグループワークでは、3つのグループに分かれ、次の3つの内容について意見を交換しました。

- (1) 草津市の歴史文化の3つのテーマについて
- (2) 見学した文化財の感想
- (3) 見学した文化財等の保存・活用のあり方について

(1) では、追加を検討すべきテーマの案や、野路小野山製鉄遺跡の知名度の低さなど具体的な課題のほか、テーマの設定方法について意見をいただきました。

(2) では、今回のまちあるきの結果、東海道筋は既に開発が進みかつての面影が少ない一方で、路地裏など、一筋入ったところでは、昔の面影を再発見できた(路地裏文化)という意見とともに、休憩所や飲食店が少ないという課題が指摘されました。

(3) では、特に「活用」について、商業活動の活性化、案内・解説の充実や多言語化、情報発信やインフラ・施設の充実の必要性などの意見が数多く出されました。また、街並みの保存等の「保存」や、周辺の景観を含めた史跡草津宿本陣の保存・活用の方法、保存・活用にむけた調査の方法などについて活発な議論がなされました。

今回のワークショップでいただいた意見につきましては、草津市歴史文化基本構想策定委員会に報告し、当構想にどのように活かしていくか検討を進めていきます。



趣旨説明



まちあるきの様子(立木神社)



学芸員からの解説(史跡草津宿本陣)



まちあるきの様子(東海道)



グループワークの様子



意見集約結果の発表

(1) 草津市の歴史文化の3つのテーマについて

テーマの具体内容

テーマ1は同意できる
テーマ3はテーマと実際に
散策した感じが異なる

野路小野山は知名度が低い

テーマ1の野路小野山製鉄
遺跡の重要性、意味づけが良
く分からない
テーマ2、3は理解しやすい

草津川(天井川)の災害に影
響した遺跡があればテーマ
として追加してはどうか

テーマ設定の考え方

草津らしさ

テーマ設定に草津市独自の
文化財に係る視点を入れる
べき

テーマ設定に寺社の多さや
古さを特徴付けられると良
い

草津に特化した(他市の焼直
しでない)構想にすべき

草津市の良さに焦点を当て
てほしい

地域の視点

歴史的価値と地域の人が感
じる価値は異なると思う

未指定文化財も取り入れる
べき

広域の視点

滋賀県のまとまりで考えて
はどうか

近江としてとらえるべき

基本的な考え方

歴史文化基本構想の目的(保
存・活用)に絞った内容に焦
点を合わせるべき(総花的で
なく、重点的に設定すべき)

テーマ設定に「保存・活用」
の視点を入れるべき
・代替わり、相続
・個人資産活用策(建築基準
法、保存管理主体等)

(2) 見学した文化財の感想

昔の面影が感じられる

路地裏文化

街道のみでなく、周辺も含め
て幅広くとらえる必要がある

路地裏文化(メインストリー
トではない)が残る

本陣などに昔の様子がある

今回見学した文化財は全般
的によく整備・管理されて
いると感じた

まちあるきの感想

買い物できる場所が必要

歴史とともに人の考え方や
習慣の変化などあればよか
った

草津川を旅人が越える方法
の説明(わき道)は、初めて
聞いた。よかった

見学対象物について、主要ポ
イントを絞るべき。万善や道
灌、酒造等を入れるべき。

歩いてくる人々が休憩でき
る町屋がない

立ち寄れる店がない

立木神社の由緒について、も
う少し詳しく説明してほし
かった

解説者が良かった

地域の雰囲気が味わえた

昼などに軽食をする所が
ない

(3) 見学した文化財等の保存・活用のあり方について

保存

街並み保存(景観)をどう考
えるかの検討が必要

高層マンションの工事も。文
化財群域での景観上よくな
い。景観規制条例が必要。

史跡保存状態の確立が必要

保護する条例はよく分から
ないが、保存が必要かどうか
のワークショップをもっと
活発にする必要がある

保存・活用に向けた調査・検討

地域に何があるかをもち
調べてほしい

史跡の成立背景の検証が必
要

太田酒造、万善等からの意見
を聞くべき

聞き取り調査が必要

東海道(本陣の前のあたり)
をどう観光に活かすか指針
が必要

点と点をつなぎ、線とする考
え方が必要

活用

商業活動(飲食・宿泊・物販店舗)

本陣に宿泊できるとよい

双葉館の2階に宿泊でき
るとよい

歩行環境

歩きやすい街道づくり

インフラ・施設

街道を休日には歩行者天国
にすべき(10:00-16:00)

公共交通

バス等公共交通機関が少な
い

シャトルバスがあるとよい

駅から立木神社へのシャト
ルバスがあるとよい(帰りは
歩き)

見学者の自家用車や団体用
大型バスの駐車場が必要

展示・公開等

新しい施設と古い文化を活
かすべき

新・旧の施設の共有
旧草津川

街道交流館の利活用ができ
ていない

街道交流館が狭いことが課
題

文化財の解説・案内・情報発信

解説に向けた整理

人物と係りをもたせると分
かりやすくなる

歴史のテーマ(時間)を決め
て文化財を分けた方がよい

文化財の名称がいろいろで
区別が分からない

言い伝えではなく、確かな年
代による時系列の整理が必要

文化財の歴史の古さが分か
りにくい

観光ルート

太田酒造を見学・試飲できる
コース設定ができるとよい

見学コースや文化財の説明
ガイドをどのように対応す
るのか検討を要する

文化財の説明してくれる人
がいると分かりやすい

文化財を案内してもらえ
る所としてもらえない所があ
る

案内板・解説サイン

案内板を工夫すべき(スタイ
ルや内容など)

QRコードを利用した案内板
があるとよい

観光ガイド

海外の人にも分かるように
案内が必要

解説・案内内容

追分道標近くに草津川の昔
の姿を示すものがあるとよ
い

旧草津川の姿を示すことが
重要になると思う

双葉館への道が分かりにく
い

登録文化財に登録されてい
る建物の登録理由が理解で
きない

その他情報発信方法

普及啓発のための冊子があ
るとよい

観光の視点からも瀬戸内の
島の例などを参考に
外国人観光客に国別のロコ
ミ(SNS)